

保護者の皆様へ

城北畑小学校の取組について ～保護者・児童アンケートの結果と学校評価の報告～

丹波篠山市立城北畑小学校

保護者の皆様には、ますますご健勝のことと存じあげます。平素は、本校の教育推進に何かとご理解ご支援をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

今年度も「教育活動のアンケート」へご協力をいただき、ありがとうございました。その結果をもとに、課題や改善策についてお伝えさせていただきます。

1 「子どもは、学校であったことを家庭で話している」について

保護者のC評価が9%と昨年よりも2%下がっています。(D評価は昨年度と変わらず3%)
一方、児童による評価を見ると、C評価が17%、D評価が5%でした。このことから、家庭内のコミュニケーションにおける保護者の認識と子どもの認識に差が生まれており、子どもは家で保護者の思っているよりも話をしていない(できていない)と捉えていることが分かりました。

保護者としても個人懇談等で、「子どもが家で学校のことを話してくれない」「楽しかった。」「普通だった。」と、漠然とした答えしか返ってこない。」という声もあり、家庭における会話に課題を感じられている方もいらっしゃるようです。

家庭における、親子のコミュニケーションについて以下を参考にしてみてください。

小学生が学校のことを話さない理由は？

お子さまがトラブルを抱えているとき

学校で嫌なことや困ったことがあるけど、誰かに話す勇気がない……そんなときはどうしてもお子さまの口数は減りがちです。こんなとき「聞き出して解決しなければ!」と、話してくれるまで聞き続けるのはNG。「何かあった?」「何でもない」「そっか」というあっさりしたやりとりでも「気にしている」という気持ちは伝わっているので、しばらく様子を見てみましょう。

思春期に入った

トラブルなどがなくても、小学3年生頃からは「保護者へ自分のことを話す」のに抵抗を持ち始める子も増えます。保護者はあれこれ詮索しないのがベター。見守る姿勢になりましょう。

★「今日の給食は何だったの?」「何が一番美味しかった?」など簡単な話題を振ると、関連した話題を思い出している話してくれることも。本人が嫌がらない程度に日常の話題を振ってみるのもおすすめです。

保護者ができることは？

日ごろから表情や態度などをよく見ておく

お子さまが何か問題を抱えているときの变化は、とても小さくて気付きにくいこともあります。「ただいま」の声が消えそうなほど小さいとき、ため息が多いときなどなど、「あれ?」と感じる変化には注意しましょう。気になる変化は、必要に応じて学校へもお知らせください。一緒に様子を見ていきます。

何気なくやりがち! 子どもへのNG態度

話しかけてきても「受け止めない・否定する言葉や態度」で返す

お子さまが何かを話したいと思ったとき、保護者の方が「今忙しいから」「でもそれは……」など「きちんと受け止めない姿勢」をとってしまうと、子どもは話したくない・話してもしょうがないという気持ちになりかねません。ほんの少しでもよいので手を止めて、顔を見て話を最後まで聞くことを意識してみるとよいかもしれません。そして子どもが普段からどう感じ、何を思っているのかを否定せず「なるほど、そう思ってるんだね」と受け止めましょう。

保護者が「過干渉」になっている

「宿題やったの?」「お友だちとはどう?」「ご飯食べきれないだろうから、こっちにしたら?」などなど、大切な我が子のことを思うというんな面でも口や手を出したくなりますよね。でも小学生にもなればいろんなことを自分で決め、選んでいきます。「干渉すぎているから、逆に子どもから話すことがない」という場合も考えられるので、いったん見守りの姿勢に変えてみて。

ベネッセ教育情報サイト「学校のことを話さない……小学生の我が子への対応法や注意すべきポイント」より一部抜粋

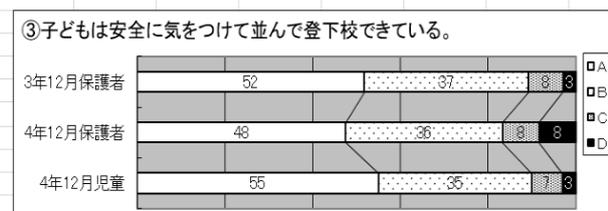
2 登下校について

保護者や地域の皆様には、登下校を見守り、声かけをしていただいたり、気づいたことをお知らせいただいたりして、安全に集団での登下校ができるようにお世話になっています。

登下校中に困ったことがあると、地区で話

し合いの時間を取ったり、下校指導をしたりしています。また、学期のはじめと終わりの校外児童会で地区ごとに話し合い、登下校のめあてや並び方を決め、振り返りをしています。アンケートの結果では、保護者も児童もA評価が昨年度より下がっていました。低学年から高学年の児童と一緒に登下校する中での、子どもたちの思いや頑張りを受け止めながら、今後も指導していきたいと思えます。

毎年メンバーが入れ替わり、学年が一つ上がって、受け継がれていく異年齢集団での登下校では素晴らしい社会性を身につけることができます。荷物を持ってもらったりしながら、一所懸命について歩いていた子ども、高学年になって下級生に声をかけ、連れていくようになります。成長を見守りながら、お声がけをよろしく願います。また、ご家庭では、低学年のお子様自分で学校まで持てる荷物の量が、気にかけていただけると助かります。



3 運動について

児童は「体を動かして遊んだり、運動したりしている」ではA評価47%とB評価28%で、75%が運動していると回答しているのに対し、保護者は59%に留まり、C評価36%・D評価5%で、41%が運動していないという結果でした。児童と保護者の間で差が出たのは、学校では運動をしているが、平日の帰宅後や休日に運動する時間が減っているのではないかと考えられます。

また、令和4年12月にスポーツ庁から出された『令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の活用促進について』では、令和元年以降、子どもの体力が低下傾向にありコロナ禍により拍車がかかった運動不足について、「短期集中の取組ではなく、継続的に実施し、日常的な運動習慣を形成することが重要」、「休み時間や放課後等を活用した外遊び・運動」「家庭や地域と連携しながら運動機会を確保」するよう報告されています。そこで、学校では、休み時間に外遊びをするように呼びかけたり、運動委員会の活動やなかよし班遊びを継続して行ったりして、運動に親しむ機会を作っていきます。

家庭や地域でも、子どもたちが運動する機会を習慣化できるよう、以下の提案をさせていただきます。

① おとなが率先して運動を「楽しむ」

毎日、外で運動することが難しい場合は、まずはお家の中で週に1回からスタートしてみてください。週1回、スクリーンタイム(テレビ・ゲーム・スマホ等の画面)ゼロの日を作って、楽しく運動してみてもいかがでしょうか。きっかけは、大人が本気で運動を楽しんでいる姿を見せることです。運動することで、お子様の成長や変化に気づき、コミュニケーションを取る機会にもなります。

【参考資料動画】

低学年:馬跳び・サーフィンなど体が触れ合う運動中心(おうち時間を楽しく!親子運動12選)

高学年:お家ですぐできる簡単レクリエーション(家レク・岐阜大学春日研究室)

② 地域の方々もみんなで運動する風土を作る。

地域でも公園などでの運動(グランドゴルフ等)や地域の自然(多紀連山など)に親しむイベントが開催されたりしています。学校を通じて手紙などでお知らせを配布しているものもあります。参加されてはいかがでしょうか。

☆今年度も、アンケート全体をとおしてA、B評価が多く、安定した生活を送れていることがうかがえます。特に「楽しく学校に行っている。」の児童の評価が昨年度に続き、高かったです。今後とも、ご家庭と力を合わせ、お子様の健やかな成長を支えるため、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

